

第26回

19世紀ヨーロッパと国民国家

監修・講師
山下範久

学習のねらい

ナポレオンの支配は、ヨーロッパの人々に近代的な市民社会の意識を浸透させると同時にフランスの支配への抵抗も引き起こし、ヨーロッパ各地で国民意識を目覚めさせることとなった。19世紀前半のヨーロッパは、自由主義とナショナリズムの精神の深まりの時代となった。1848年の諸革命は民衆による下からの運動の頂点となったが、以降、運動は挫折し、むしろ政府主導で上からの国民国家の構築が進められるようになった。今回は、19世紀にヨーロッパでどのようにして国民国家がつくられ、それが国家による統治をどのように変えたかを、特にドイツの統一とビスマルクの事績を通して学ぶ。

>>> <<<< <1848年革命>

二月革命 三月革命 ウィーン体制の崩壊

>>> <<<< <グリム童話と民族の自覚>

フランクフルト国民議会 ナショナリズム

>>> <<<< <ビスマルクの国民統合>

ドイツ関税同盟 普仏戦争 社会保険制度と社会主義者鎮圧法

■■■ 1848年革命 ■■■

ナポレオンの支配はヨーロッパに自由主義と国民意識の種をまいた。19世紀にはヨーロッパ各地で、イギリスやフランスのように産業革命で先行した大国に対抗するため、強力な国家の構築を目指す動きが生じた。その際、特権階級だけが国家を造るのではなく、国民全体が国家を支える国民国家が理念として掲げられた。国民主義（ナショナリズム）の動きである。1829年にギリシアがオスマン帝国から独立を勝ち取ると、これがヨーロッパ各地の自由主義と国民主義に火をつけ、翌年1830年にはフランスで七月革命が起こった。七月革命はベルギーの独立を促したほか、ポーランド、ドイツ、イタリアにも波及した。こうした運動は労働者や中下層のブルジョワジーを担い手としてさらに高揚し、1848年にはパリで**二月革命**、続いてウィーンとベルリンで**三月革命**を引き起こし、その結果正統主義に基づく**ウィーン体制**は崩壊した。

■ ■ ■ グリム童話と民族の自覚 ■ ■ ■

三月革命を経て開催された**フランクフルト国民議会**は君主制と共和制の対立、大ドイツ主義と小ドイツの対立などで紛糾し、ドイツ統一の実現に至らず、翌年解散となった。その後のドイツ統一においては、それまで何世紀にもわたって別々の領邦国家に属していた人々をひとつの国民とすることを必要とした。いわば国民（ネイション）としてのドイツは、その共通性を「発見」ないしは「創造」される必要があった。グリム童話で知られるグリム兄弟は、ともに言語学者であり、ドイツ語辞典の編纂事業など、国民が共通して話すドイツ語の標準化に貢献した。彼らがドイツ各地の民話を収集して編んだグリム童話も、ドイツ民族の文化的共通性を示すものとして編纂されたものである。こうした事業はドイツのナショナリズムの高まりにロマン主義の芸術運動が呼応した結果でもある。

■ ■ ■ ビスマルクの国民統合 ■ ■ ■

プロイセンの首相としてドイツ統一の主導権を握ったビスマルクは1866年のプロイセン・オーストリア戦争でオーストリアを破ると、翌年には北ドイツ連邦を成立させた。さらに1870年**プロイセン・フランス戦争（普仏戦争）**では南ドイツの諸邦を含めたナショナリズムが高揚してプロイセン中心のドイツに結束し、1871年、戦争はドイツの勝利に終わり、同年、統一ドイツ国家であるドイツ帝国が成立した。ビスマルクの国内統治政策はしばしば「アメとムチ」と表現される。一方で社会主義者鎮圧法の制定により、労働者の反政府運動を厳しく弾圧しつつ、他方では各種の社会保険制度をととのえて、労働者の国家への帰属心を高めようとした。ビスマルクは、いわば上からの国民統合を通じて、工場労働者や兵士として動員可能な国民をつくり出し、ヨーロッパの列強の一国としてのドイツの地位を保とうとしたのである。

考えてみよう 調べてみよう

- イタリアの統一とドイツの統一の過程を比べてみよう。
- 日本に全国共通の学校制度をつくるのが定められたのはいつか調べてみよう。
- もしビスマルクが社会主義運動を弾圧するだけで、労働者の権利を保護する政策をまったくとらなかったら何が起きたかを考えてみよう。